

2022 年度事業計画

- 公1 我が国と諸外国の児童及び青少年を対象とした外国語教育、並びに多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業
104,280,603 円
内、公益目的事業共通費用 73,792,699 円（給料手当、福利厚生費、消耗品費、賃借料など）

ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業 11,748,213 円

(1)「学校のソトでうでだめし」プロジェクト		予算	6,557,586 円
事業名	テンダーさんの「その辺のもので生きる」オンライン講座		
事業の目的	個人が、社会の主流の構造のなかでもそれ以外のオルタナティブな方法でも、自ら選んで生きていくための技術と知識、ものの見方、考え方、表現力などを身につけることで、社会に多様な生き方や価値観とその選択の余地が増えていくことをめざす。		
2022 年度の目標と見込まれる成果	・2022 年度をもって本講座のシリーズは完結する。とくに終盤では、参加者がこれまでの講座で身につけた技術や考え方をもって社会に関与していくために役立つ内容（交渉、プレゼンテーション、コミュニケーション、表現など）に重点を置く。 ・全講座終了後、3 年度にわたる講座の内容と成果を総括し報告をまとめる。報告をまとめるにあたっては、この講座で伝えた具体的な内容、その背景にあるものの見方、考え方が多くの人と共有され、長期にわたって社会に役立つものとなることを重視し、そのための適切な媒体や表現方法について慎重に検討を行う。2022 年度はおもに準備作業を行い、2023 年度の完成をめざす。		
事業内容	全体の目的に向けて、以下のさまざまなテーマからアプローチし、技術を身につけながら、知識や思考を深めていく。基本的にオンラインで実施する。講座内容と運営方法については、2021 年度同様、各回実施後にテンダー氏と検証を行い、よりよい方法に変えていく。 ・安価で手に入れやすく、環境負荷の少ない材料を使ってコンポストトイレを作る方法を身につける。また、世界のどの地域の人でも安く簡単に組み立てられるコンポストトイレの技術が環境や社会にどのように作用するのかということや、水の仕組み、社会インフラ、水質汚染、細菌の働きなどについても学ぶ。 ・ソーラークッカーを作ってお湯を沸かし、太陽熱利用を学ぶ。 ・社会に関与し、変化を生み出すための交渉の技術について考察、実践する。 ・社会の「あたりまえ」を変えて大切なものを守るために、講座で学んだことを参加者自ら総括し、これからどのように行動していくかを考え、共有する。		
対 象	国内外の中高生、大学生、大人 20～50 人 *募集人数は、各講座で扱う作業内容と危険度によって決定する		
主な講師	テンダー氏 / 環境活動家、一般社団法人その辺のもので生きる代表理事、市民工房ダイナミックラボ運営		
実施時期/回数	4 月 3 日、6 月 5 日、7 月 31 日、10 月 2 日、12 月末 計 5 回を予定		
実施形態	オンライン		
実施主体	主催		

参加費等	中高生：無料～1500 円程度、大人：1500～3000 円 * 金額は各講座の材料費とその送料によって決定する
------	--

(2) インタラクティブ地球儀「Sphere」の地球講座		予算	4,010,627 円
事業名	「そうだ! 地球に相談だ」ー地球の目線を育むワークショップー		
事業の目的	世界の青少年のグローバルに対する理解を国際から地球へとアップデートし、地球の目線を持ったことばと文化の学びと交流へパラダイムシフトを促すきっかけを提供する。 事業実施後、参加者が SDGs など世界の課題や目標達成に資する地球大の関係力*に意識的になっていることを目的とする。 *地球大の関係力：地球上の隣人（人類にかぎらない）と融通したり共有したり協力したりする関係性の力		
2022 年度の目標と見込まれる成果	■VISION（目指す姿・状況） 世界の青少年のグローバルに対する理解が深まり、地球における共在感（Online presence）と文脈への慮り（context awareness）を高め、利他的に連帯・共生するための地球大の関係力に意識的になっている ■VALUE（どのような価値を共有するか） 次世代を担う青少年の意識を国際から地球へとアップデートし、地球の目線を持ったことばと文化の学びと交流を世に提示する。このパラダイムシフトが SDGs などの目標達成に貢献する地球大の関係力を育む ■BACKGROUND（社会的な背景） 社会のグローバル化が進展し多様な人と共生するようになったが、環境の激変、ウイルスの感染拡大など地球規模で関係性を築いて解決していかなければならない状況にあることを理解する ■KEY IDEA（目指す姿・状況を実現する手立て） 地球環境課題等の見える化を図り、“地球目線”をもった真の地球人の育成を目的にインタラクティブ地球儀「Sphere」の開発、講演などを行ってきた NPO 法人 Earth Literacy Program と、ことばと文化の学びと交流の事業を進めてきた TJF が協力して、地球リテラシー**に支えられた関係力を育成する **地球リテラシー：球体(globe)で見て思考することによって、私たちの日常を、地球の目線へと拡張し、理解することができる力		
事業内容	■講座とワークショップ 以下の 3 つのプログラムを組み合わせることで地球リテラシーの醸成を目指す。 1. 地球レクチャー 「Sphere」に搭載されている 100 を超えるプログラム（リアルタイム気象データ、移動する動物、台風・津波・海流の変化、地球温暖化シミュレーション、人口動態など）からグローバル（global）な事象が球体（globe、地球）上でおきていることを学ぶ講座と質疑応答。 2. ワークショップ「地球の今と未来の間にいるわたしたち」について考える レクチャーを受けて新たに発見した地球の姿、課題や解決方法などについてグループ毎に共有しながらわたしたちの地球に対する理解を深め、国や地域を越えてわた		

	したちが共有している文脈（状況）への気づきを促し、参加者同士で共感（エンパシー）するための素地を育む。 3. 「私の地球と自分自身のこと」を発表する 地球の様子を学び、共有する課題を考えた後、この地球に生きる自分自身のことを表現するワークショップを行い、ことばに限らず、造形表現、音なども含め多様な手法で発表することをゴールにする。 ■LIVE 企画「夏至・冬至を実感」 一年で最も昼が長い日と短い日（北半球、南半球では長短が逆転）する時期に緯度経度の違う地域からそれぞれの地域の「空模様」などの映像を同時多発で共有する機会をつくり、時の移ろいを実感し共有できるリレー中継イベント。 また、そのライブの様子と併せて Sphere を活用したミニレクチャーを組み合わせ、球体（globe）であることを実感する時間をもつ。 中継報告の参加者以外にも、日本、世界各地から観覧できるように YouTube LIVE で配信する。
対 象	小中高校生（各回 20 人程度） ※高校生向けのプログラムについては、国内外から参加者を募る
主な講師	竹村真一（Sphere 開発者、京都芸術大学教授、NPO 法人 ELP（Earth Literacy Program）代表）
実施時期/回数	6 月、8 月、12 月に 4 回程度
実施形態	オンライン
実施主体	主催
参加費等	無料

(3) アの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動		予算	1,180,000 円
事業概要	関連学会・各種団体等への会費、職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。		

イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発・提供事業
2,409,600 円

(1) ときめき取材記ウェブサイトの運営		予算	314,600 円
事業名	ときめき取材記ウェブサイトの運営		
事業の目的	ときめきプロジェクトに参加した学生が、テーマを考えることで社会を多面的に見つめなおし、インタビューとじっくり向き合うことで、自分と異なる意見や考えを聞き、相手のことばを受け止め、自分が思い込んでいる「文化」を崩し、「文化」を新しい視点で捉えるようになり、またウェブサイトの記事を発信することで、表現力を身につけるとともに発信することの責任を感じてもらうことを目的とする。		
2022 年度の目標と見込まれる成果	これまでときめきプロジェクトは各教師が主体となって実施し、TJF 担当者は教師と協力してプロセスで生じた問題の解決をはかったり、学生の記事の掲載前に改善・修正点を指摘し、インタビューのウェブ掲載承諾書を得てウェブに掲載してきた。22 年度は、ときめきプロジェクトが自律的に発展することと、実践者を増やすことを目標とし、これまでの素材を整理するとともに、ウェブへの投稿までのしかけをつくり、23 年度に整理したものをウェブサイトで提示する。		
事業内容	1. これまでの素材の整理 さまざまな現場での実践を可視化し、より多くの人の参考となるよう、これまでの実践とその成果物である記事を、対象やキーワードなどで分類するマトリックスを作成する。さらに、ときめきと同じ聞き書きの手法を使っている「くりっくにつぼん」の記事もマトリックスに含め、これまで TJF が発信してきたインタビュー記事の集積化を図る。 2. 投稿のしかけをつくる 記事掲載の条件・推奨事項のほか、TJF 担当者が担ってきたことを文書化し、それを実際に使ってもらいフィードバックを得て完成させる。 3. これまでの勉強会やワークショップ参加者全員を含んだグループの立ち上げ 新たな実践者をフォローしてもらうことも視野にいれ、将来的にはグループで勉強会を適宜開催するなど活動できるよう、22 年度はそのための下地をつくる。グループの活動の場として Slack（ビジネスチャットアプリ）を活用する。 4. 報告書（前年度発行）に含まれていない事例も同じフォーマットで執筆してもらい（法政大学、秋田大学など）、上記マトリックスに含めるほか、PDF をウェブサイトに掲載する。		
対 象	これまでのワークショップ参加者等 20 名程度		
実施時期・回数	上記 1、4 は上半期に第 1 稿を作成 上記 2 は新年度から使ってもらえるように 5 月ごろまでに第 1 稿を作成し、1 年を通して使ってもらった後に、コアメンバーと会合を開き、フィードバックをもらい完成させる。 上記 3 は 1 年を通して行う		
実施形態	オンライン		
実施主体	主催		
参加費等	無料		

※ロシア関連のプログラムは、交流再開できるときまで当面の間、実施を延期する

(2) ロシアの日本語教材制作		予算	1,455,000 円
事業名	「交流を通じて学ぶ日本語・ロシア語教材開発」		
事業の目的	ロシアの初中等学校における日本語教育でも、日本の高校におけるロシア語教育でも教材不足が長年指摘されている。日露の関係団体がそれぞれ初中等向けの教材開発に取り組もうとしているが、交流に軸足を置いた教材はまだ見られない。2021 年度に実施した「日露高校生交流パフォーマンス交流」で題材として市販の絵本を用いた結果、ストーリーが短く読みやすいこと、文化や価値観に根差したストーリーは相互理解や対話のよいきっかけになることなど、絵本の有効性が検証できた。そこで、「ことば・文化」と「交流・対話」を掛け合わせた「絵本」教材を制作する。その教材を活用することで、高校生が交流をしながら、互いのことばや文化について学び、対話と協働を通じて相互理解を深め、さらなる学習意欲を高めることを目的とする。		
2022 年度の目標と見込まれる成果	今の時代や社会で共通の関心事である多文化交流や異文化理解における人間の不安、疑問、恐れ、葛藤、価値観のぶつかり合い、出会いや対話による心の変化などを織り込んだストーリーをもつ絵本を作成することで、学習者や読者の心に違和感や引っ掛かりを作る機会を生み出し、対話を促す。 この絵本教材を中心に据え、日露の教師交流、高校生交流を展開し、さらにそこで得たフィードバックを絵本教材に活かす。 教師交流：「絵本教材」を用いた学習や交流活動をテーマとした研修を日露の教師を対象に実施する。 高校生交流：作成した「絵本教材」を使い、日露の高校生が対話を深めオリジナルの戯曲をつくって動画作品を協働でつくる。		
事業内容	戯曲家を中心にアプライド演劇的手法を用いて、さまざまな問題を自分事として捉え、対話したり解決策を一緒に考えたりできるようなオープンエンドなストーリーを作り、ストーリーのターニングポイントで学習者や読者がその先の展開を選択したり創作したりできるものにする。 ＜作成のポイント＞ ・絵本教材はストーリー展開を重視し、言語学習要素を分離する（言語学習要素や教師用教材活用のヒントなどはウェブサイトで展開）。 ・日露併記にする（併記の仕方を工夫する） ・学習者や読者の思考の動きに適した形態にする ・物語の素材となるエピソードは日露の大学生座談会やインタビューを通じて収集する		
成果物の制作	部数：500 部 配布先：ロシアの学校 250、日本の学校 150、新たな学校や交流用予備 100 仕様：A4 変形、44 頁		
対 象	ロシアの日本語教育、日本のロシア語教育の現場		
主な講師など	戯曲家、画家、翻訳家、年少者日本語・ロシア語教育専門家など ※画家の卵、ブックデザイナーの卵など若い感性を持つ人材を採用する		
実施時期/回数	2022 年 1 月～3 月、情報収集、メンバー候補検討 4 月：教材作成メンバー決定 11 月：ストーリー・絵の完成 12 月～2023 年 1 月 日露パフォーマンス交流で PDF を試用・検証 2 月：教師交流会（教材研修）でフィードバックを得る		

	3月：修正、仕上げ ※2023年度に印刷、寄贈、ウェブサイトの作成
実施形態	オンライン
実施主体	主催

(3) イの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動	予算	640,000 円
事業概要	関連学会・各種団体等への会費、職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。	

ウ. 互いのことを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業 8,006,900 円
--

※ロシア関連のプログラムは、交流再開できるときまで当面の間、実施を延期する

(1) 日露の教師・生徒交流プログラム	予算	1,934,800 円
事業名	日露の教師・生徒交流プログラム	
事業の目的	これまで、「交流学习」というコンセプトに基づく交流プログラムに取り組む中で、「日露間は距離や費用の面からお互い行き来しにくい」「科目の位置づけ、担当教員の地位、履修者数の規模から、各学校が単独で交流体制がなかなか作れない」「学習のための素材や成果物の交換費用が確保できない」「交流相手が見つからない」といった課題も見えてきた。 そこで、これらの課題を解決するために、つながりやすい、情報共有しやすい、負担が多い移動を伴わない、比較的費用がかからない「オンライン」の可能性に着目し、2021年度に引き続き、以下の3つのポイントを目的とする。 ① 日露教師間ネットワークを構築・強化しつつ、継続的な教師間交流のためのプラットフォームを運営する ② 日露教師間ネットワークを基盤に、日露高校生間の交流学习プログラムを実施し、その成果を各教師の学校、教室に還元する ③ オンラインによる「交流学习プログラム」のスタイルを確立し、経験を積み、そのノウハウを日露教師と共有し、日露教師間において主体的・自立的な交流学习体制を育てる	
2022年度の目標と見込まれる成果	交流学习の推進を一層充実させるために、①教材づくり（前掲「ロシアの日本語教材制作」事業、②学習者交流、③教師交流（教材研修）を行う。これら三つのプログラムを相互に関連させ、相乗効果を狙う。今後2～3年をかけて、日露教師間、学校間で主体的、自立的に交流学习、プロジェクト型言語学習が行えるよう、ネットワーク、プラットフォーム、プログラム、ノウハウを含む基盤を整備する。	
事業内容	2022年度の日露交流は以下の三つのプログラムに関連付けながら展開していく 1. 「交流を通じて学ぶ日本語・ロシア語教材開発」（前掲「ロシアの日本語教材制作」事業の項参照） 日露の若い世代間の文化的、価値観的共感やズレを織り込んだ物語をつくり、絵本という形で表現する。その絵本の試作版を作り、日露高校生交流の題材とする。交流のプロセスで得られたフィードバックに基づいて、教材を修正・改善し、内容を完成さ	

	せる。2023 年度に印刷し、各学校に寄贈する。 2. 日露高校生パフォーマンス交流（オンライン第 2 回） 2021 年度に行った 1 回目の交流同様、絵本を使った演劇プログラムを実施する。プログラムのブラッシュアップを行い、実施スタイルを確立していく。1 の絵本教材を活用し、日露の高校生が対話し、絵本の物語の続きについて協働創作を行い、動画作品にまとめる。この活動を通じて教材制作へのフィードバックを得る。 3. 日露教師交流会（オンライン第 2 回、教材研修として位置付ける） ・絵本教材の内容構成、活用方法についてレクチャーを行う。 ・高校生交流での活用を実践例として紹介する ・2023 年度の教材ウェブサイトの開発に向けてアイデアを募る ・絵本教材を使った交流プロジェクトの実践モニターを募集する
対 象	日露高校生 計 20 名（各 10 名程度） 日露教師 30～40 名
主な講師など	2021 年度の協力者をベースにする
実施時期/回数	日露高校生交流 2022 年 12 月～2023 年 1 月（計 2 回） 日露教師交流会 2023 年 2 月（1 日程度）
実施形態	オンライン
実施主体	主催

（２）多言語・多文化パフォーマンス合宿		予算	5,222,100 円
事業名	多言語・多文化パフォーマンス合宿（オンライン版、地域版）		
事業の目的	多文化化が進む日本国内において、海外につながりをもつ高校生の年代の人が受けられるサポートは小学校、中学校と比べると多くない。年次の低い学年がより重視されている。高校にあたる年代では、就学できたとしても様々な問題が依然解決されていない。学習言語の遅れ、母語母文化の薄れ、自己肯定感の喪失や就職へのサポートのなさ、など。一方、海外にルーツをもたない高校生は、特別なことがなければ海外ルーツのある生徒と接点を持つことも少なく、学校内で同じ授業を受けていても両者の交流はうまくない。互いのことをまず知ること、表現活動をとおして対話や協働を促進する機会を提供する。 また、国内外の様々な背景のある同年代の交流にも着目し、多様な人で構成されるチームで対話することでコミュニケーション能力や理解力を伸ばせる機会を創出することを目的とする。		
2022 年度の目標と見込まれる成果	① 海外の日本語学習者と国内の多様な高校生の双方を対象とするマルチ型交流（オンライン）を継続する。地球環境やダイバーシティなどを視野に、対話を通じて深い理解とそれに基づく発信を行うことを目的とする。 このプロセスを通じて、地球規模の課題を自身の課題として捉え、世界中の同世代と協働して問題解決に向かうマインドとスキルと行動力を育む。オンラインでは海外からも参加できるのはもちろん、対面交流にハードルを感じている国内の参加者にとっても、社会との新たなつながりを作るきっかけにできる。 ② 外国人移民・住民が集住している地域の NPO 及び地域行政と連携し、地域型交流（対面）のモデル開発を行う。地域の多文化共生ニーズに寄り添った交流プログラム		

	を開発し、地域のネットワークと資源を生かして、多文化共生を目指した地域づくり、地域活動の持続的発展を担う人材の育成などに寄与することを目指す。
事業内容	① マルチ型交流オンラインプログラム 参加者数名ずつのグループを構成し、前掲の地球環境やダイバーシティを大きなテーマとして互いの価値観や考えていることなどを交換し、身体表現・造形表現・音楽表現、映像技術を組み合わせてひとつの作品として表現する。 ・参加者は日本国内の多様な高校生のみならず、海外の日本語学習者、継承語学習者、海外子女、帰国子女、日本語学校在学生なども対象とする。 ② 地方型交流プログラムのモデル開発（対面） アメリカで社会包摂、多文化教育のために開発された I am from プログラムや応用演劇を中心に据え、自分を表現すること、参加者同士の対話を醸成することなどをワークショップ形式で実践する。 自他理解、協働と共創、キャリア教育など地域の抱える課題に重点をおき、参加者のエンパワーメントにつながる内容を目指す。 地域版第一回は、広島県安芸高田市、呉市、東広島市、福山市の各多文化共生センター、国際交流協会、キッズサポート機関などの NPO とコンソーシアムを組んで企画・実施する。 また、このモデル開発事業に関心を持つ他地域（岐阜 NPO ネットワーク、富山県 NPO ネットワーク）からの参加者推薦があれば受け入れていく。
対 象	① 15 歳～19 歳（高校生年齢） 計 20 名（多様な文化的・言語的背景のある高校生） ② 広島地域の高校年齢 25 名～30 名（海外につながる高校生、それ以外の高校生）
主な講師など	① 演劇、音楽、造形アート、映像関連の専門家、サポーター（過去の参加者等） ② 演劇、身体表現等の専門家、サポーター（過去の参加者等）
実施時期/回数	① 2022 年 8 月 ② 時期未定 1 回
実施形態	① オンライン ② 対面
実施主体	主催 ②協力：広島県教育委員会等
参加費等	無料

（３）ウの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動		予算	850,000 円
事業概要	職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。		

エ. 広報事業
8,323,191 円

(1) 事業報告書『CoReCa』の発行		予算	5,555,000 円
事業概要	2021 年度事業について報告するとともに、2022 年度の TJF 創立 35 周年にふさわしい誌面づくりを目指す。		
発行部数	4500 部		

(2) デジタル媒体を使った広報		予算	2,368,191 円
事業概要	メールマガジン「わやわや」の発行、TJF ウェブサイト、Facebook page、Instagram などの媒体による情報発信に加え、昨今の IT 環境の変化を十分に配慮して、より効果的なデジタル広報の環境を整備し、発信についての調査、研究等を実践する。		
2022 年度の目標と見込まれる成果	・メールマガジン現在読者数（約 2500 名）の維持 ・ウェブサイトへのアクセス解析などを行い、発信の工夫を凝らすとともに、いずれの媒体にもアクセス数が増加することを目指す。		
メールマガジンの配信計画	① 定期号：月 1 回。第 3 水曜の昼 12 時に配信 年間事業スケジュールに合わせ、参加者募集、事業の報告を掲載するほか、他団体のイベント情報などを掲載する。 ②臨時号：参加者・見学者募集など事業担当者の要望に合わせ随時配信		

(3) エの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動		予算	400,000 円
事業概要	職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。		